

臨床で見た血管指標
～ 2型糖尿病患者と血管指標 ～

坂下杏奈、秋山義隆、阿部義美、森澤智子
押谷奈都子、森田智子、松田彰、松田昌文

埼玉医科大学総合医療センター 内分泌・糖尿病内科

【目的】 2型糖尿病患者において血管障害の程度の評価は重要である。指標API (Arterial Pressure volume Index)、AVI (Arterial Velocity pulse Index) の意義を2型糖尿病患者において評価するために四肢脈波測定装置によるPWV (Pressure Wave Velocity) 及びFMD (Flow-Mediated Vasodilation) 測定により得られる血管指標との関連を検討。

【方法】 入院2型糖尿病患者 (n=43、M/F=25/18、年齢: 60 ± 13 、HbA1c: $10 \pm 6\%$) に血管指標計測可能血圧計測定しPWV、FMD測定結果との関連を検討。

【結果】 AVI、APIは 24 ± 8 、 25 ± 8 であった。AVIは年齢、空腹時血糖、左右baPWVと有意に相関。baPWVとAVI ($r=0.50$ 、 $p<0.01$)、API ($r=0.34$ 、 $p<0.05$) 共に相関したがAPIはFMD測定時のstiffness- β ($r=-0.3$ 、 $p=0.06$) と逆相関傾向があった。AVIとAPIの意義を評価するため更に因子分析を行った。AVIはbaPWV、年齢、API、血圧を含む因子に、APIはBMI、血圧を含む因子に解析された。

【総括】 血圧測定のみでPWV相当の指標である指標AVIが糖尿病患者にもおいても有用と思われるが、血圧の影響の評価や、API指標自体の意義については今後の検討が必要と考えられる。